

大田区景観まちづくり賞キックオフイベントについて

- ・大田区景観まちづくり賞キックオフイベントとして行った、大田区景観まちづくり賞キックオフシンポジウム、景観セミナー、蒲田まちあるき、景観パネル展の概要を整理しました。

1. 大田区景観まちづくり賞キックオフシンポジウム

- ・本シンポジウムは、今年度、新たに区内の良好な景観形成に寄与する街並みや建築物、活動などを表彰する「大田区景観まちづくり賞」を創設することから、「大田区景観まちづくり賞」のキックオフを記念するとともに、景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力あふれる景観形成をさらに推進するために開催しました。



- ・大田区景観審議会副会長である野原卓氏（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）の基調講演、大田区景観審議会委員4名及び景観アドバイザー1名によるパネルディスカッション等が行われました。また、シンポジウム会場では、景観パネル展の一部パネルを展示しました。

○開催概要

日 時：平成 27 年 7 月 13 日（月） 18 時から 20 時 44 分まで

場 所：大田区民ホール・アプリコ小ホール

来場者：59 名（区内 32 名、区外 27 名）

1) 大田区景観まちづくり賞について

- ・第 1 回大田区景観まちづくり賞の概要を説明し、応募を呼びかけました。

2) 基調講演「地域を豊かにする景観づくり」

(野原卓氏 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

- ・野原卓氏による基調講演が行われました。

○基調講演の概要

- ・各地の街並みを例に、景観を簡単に良い、悪いということだけでなく、みんなで景観の豊かさ（価値）がどこにあるかを意識して、その豊かさ（価値）をどんどん高めていく工夫が重要。
- ・「景観まちづくりを考える3つのコツ」として、「発見」（解説）、「工夫」、「共有」の3つを紹介。



■「景観まちづくりを考える3つのコツ」について

3つのコツ		参考として紹介された事例
「発見」 (解説)	・景観が放つ魅力、地域ならではの特徴、都市の構造などから、その価値を自分で発見、認識し、意識することが大切	・新宿区目白文化村、下落合地区、中井地区の地域の成り立ち ・横浜市関内地区の防火帯建築（蒲田に残る防火建築帯）
「工夫」	・意識した街並みや景観が維持されるなど、さらに魅力アップにつなげていく知恵をみんなで出していく、あるいは、その景観を維持していくための活動自体が知恵でもあるので、そういったことをきちんと展開することが大切	・蔵のまちである福島県喜多方市の「くらにわ」の創出
「共有」	・「工夫」を多くの人が共有、共感して、ファンを増やしていくことが大切	・大田区の町工場の建物の魅力

3) パネルディスカッション「地域力を高める、多様な景観づくり」

(1) 話題提供

- ・話題提供として、シンポジウム前に行われた景観セミナー、蒲田まちあるきの開催概要の報告がありました。

①景観セミナーの開催概要の報告

(滝沢真美氏 (株)日本カラーデザイン研究所プロジェクト推進部副部長・大田区景観アドバイザー)

(15～17 ページ参照)

- ・景観セミナーの講師を務めた滝沢氏から開催概要の報告がありました。



②蒲田まちあるきの開催概要の報告

(杉田早苗氏 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻助教)

(18～20 ページ参照)

- ・蒲田まちあるきに帯同した杉田氏から開催概要の報告がありました。



(2) パネルディスカッション

○登壇者

〈コーディネーター〉



野原卓氏
(前出)

〈パネリスト (五十音順)〉



大澤昭彦氏
(高崎経済大学地域政策学部地域政策学科准教授)



杉田早苗氏
(前出)



滝沢真美氏
(前出)



福井恒明氏
(法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授)

○パネルディスカッションの概要

〈話題提供、大田区の景観等に関する感想〉

(福井氏)

- ・景観というと、規制があって、それに従わなければいけないということ言われることもあるが、そうではなく、地域に関する価値観を共有することから、初めて「景観」の意味が出てくるのではないかと。
- ・専門的には「視点場」という言葉を使うが、どこから見るかということ考えると、公共空間、道路や鉄道が多に多い。景観を良くするというと、建物や看板などの話が出てくるが、それはどこから見るかということと路上からなので、そういったことも重要。大田区のまちを知るときに、一番時間を過ごしているのは駅周辺ではないかと思うので、そのときにまちがどう見えてくるかが重要。



- ・土木的な観点から見ても多くの種類の空間、構造物がある。多摩川のような大河や呑川のような小さな河川、鉄道や駅、羽田空港、橋、池、海、堤防もある。ないものはダムくらいかと思ったが、洗足池は堰堤なので実はダムということではほぼ全部ある。多様で様々な資源があるので、ベースになっている部分も大事にしていきたい。これからつくっていく空間の中で人がたくさん集まる駅や交通拠点については、良い景観にしてほしい。

(大澤氏)

- ・日本のまちは、普通の何気ない景観が特徴という気がするが、その中で、看板や路面やサインの色彩など少しずつ改善していくことが重要。特に大田区は路上にカラーコーンなどちょっとした看板がなくなるだけでもだいぶ改善できると思う。
- ・景観を改善するだけでなく、景観の見方を変え、自由に解釈することによって楽しむことも重要。
- ・大田区の特徴は、水辺、樹木、自然、地形、崖線などで、景観の骨格は大きなランドスケープである。その自然をいかに生かしていくかが重要。
- ・蒲田まちあるきのアンケート回答にもあったが、再開発が重要ではないというわけではないが、商店街に価値を見出している人が多い。そういうヒューマンスケールのまち、そこが大田区らしさ、地域の豊かさになっているとすれば、そこも考える必要がある。

(滝沢氏)

- ・色彩が安直に考えられているのではないか。大田区景観アドバイザーとして、様々な事例に触れる中で色彩の根拠が曖昧なケースがある。景観を良くしていくためには、みんなが考えをもって、展開していかなければいけないと強く感じる。
- ・景観形成上良くない例として、公共施設の塗替えの際、深く考えずに以前と同じ色使う、工期が違うことから塗り替えの結果、橋の両側で違う色になるといったことがある。

(野原氏)

- ・橋の両側で色調整をしっかり行うなど、景観の境目をいかになくしていくかも景観形成上重要ではないか。

(杉田氏)

- ・景観は見た目だけではない。景観計画自体で規制しているのはハード部分だけで、それ以外の部分に関与することは非常に難しいが、計画策定後の景観まちづくり推進の中でソフト的な面との連携を図っていくことが重要ではないか。
- ・大田区は自然から見たときに景観の骨格のようなものがある。大きなフレームワークとして、守っていかなければいけない場所をはっきり打ち出していくことが重要。一方で、これまでの人々の生活などヒューマンスケールでの空間の履歴を掘り起こして、

残すべきものとして配置するなど、大きなフレームを自然から得て、その中にヒューマンスケールで残していくべき小さなものを探して残していくといったことを目指して景観を形成していくことが重要。

- ・ある景観を誰かが保全活動している、誰かが大切にしているということを知るだけで、他の人も大切にしようと思うことが多いと思う。地域の人々が、ある場所をどのように思っているのかを共有することで、地域の景観が生まれ、守られていくと思うので、価値や意味を発見して、それをみんなで共有して大切さをPRしていくことが重要ではないか。壊されそうになってから始めても遅いので、先手を打っていくことがとても大事。
- ・緑や自然を単体で守ろうとしても、その価値を高めていくことはなかなかできない。区全体でのネットワークや、全体的に見て、価値をきちんと把握してPRしていくことが大事。

〈大田区らしい景観及び景観づくりの「工夫」「共有」について〉

(福井氏)

- ・呑川が少し曲がっていたり、多摩川が大きく蛇行することによって、また、蒲田周辺で昭和的な街並みや、新しく整備された場所やこれから整備される場所があるなど、見えてくる空間の変化が結構面白いのではないかな。
- ・地域に何が適切で、歴史を踏まえるとどういう文脈が良いのかということを考えて上で議論する土壌が重要。
- ・駅にはいろいろな構造物があるが、一つの景観としてまとまりをつくる際には、地元自治体の役割が期待される場所が大きい。規定に基づいた審査を経たから良いということではなく、全体としてどういう景観が形成され、利用がされるのかということもきちんと議論しないといけない。
駅前広場の設計計画をする際に、全体でどうなっているかという図面は作成していないと思います。専門分野に分化して、それぞれ持ち場を守れば良いという感じがあるが、もう一回改めて持ち寄って、景観としてどうなっているのかということを確認して、再修正するプロセスがあると、より良くなるのではないかなと思う。

(大澤氏)

- ・大田区らしさとして区民が景観の多様性を認識しているのであれば、大田区の景観を考える上で重要なことは、急激に変化させないことではないかな。高度地区は急激な変化を抑制するツールだが、それだけで良い景観が守られるわけではない。高度地区の指定が景観を考える上でのひとつのきっかけになってくれると良い。
- ・高度地区を踏まえて、どのくらいの建物が建つかといった建物高さのハザードマップのような情報共有ツールがあると良い。

(滝沢氏)

- ・他区に比べて多様性が大田区の一番の財産ではないか
- ・蒲田駅の東口周辺に赤い看板がたくさんあるが、それを全部なくして、真っ白なまちにしようとしても、それが蒲田らしいかといわれると少し違う気がする。全部を新しくするのではなくて、その良さを残していくべきではないか。
- ・「工夫」、「共有」する際は、フィールドワークが大事。地域のことは地域に住んでいる人が最も分かるということもあるが、当たり前過ぎて自分の地域のメリットにあまり気づかないこともある。第三者を交えて、地域の魅力に気づくほうが良いと思う。そういう意味では、第三者的な視点を入れてのフィールドワークが一つの方法としてあると思う。

(杉田氏)

- ・他区と違うものは何なのかということは考えなくていいと思う。ベーシックだけど大事にしなければいけないものを丹念に見つけ、明確にして位置づけていくことが重要。
- ・呑川は区の真ん中を流れる川であり、県境にある多摩川より重要でその環境や景観を良くしていくことが大田区らしさとして重要ではないか。
- ・「共有」には、プロセスデザインが重要。プロセスデザインに失敗したためにハードのデザインもうまうまなくなることがたくさんある。

〈質疑応答〉

(来場者)

- ・景観セミナーに参加したが、景観にふさわしいすばらしいセミナーだった。いまだかつてこれほど勉強になったセミナーはない。ありがとうございました。
新しくできるもの、特に行政が関係するようなものは、「景観に配慮する」というルールを入れてほしい。また、市民も景観に関心を持ってほしい。

(福井氏)

- ・景観に配慮することはとても重要。ただ、気をつけたいのは景観に配慮したことにするこ
とである。角を丸くしたことだけで景観に配慮したことになってしまうことがある。そう
ならないようにしていきたい。

(来場者)

- ・羽田クロノゲートなど新しいもの、あるいは飛行機から見た景観などが話題に取り上げら
れていないことが非常に残念だった。大田区として大事だと思うが、どう考えているか。

(野原氏)

- ・羽田クロノゲートはクロネコヤマトの物流センターだが、障害を持った方々などが働かれ
ている活動が含まれているスワンカフェや体育館があり、区民も使うことができる施設が
ある。カフェと体育館の間が、公園になっている。物流施設はいろいろな負荷がかかり、

大きな施設だが、モノをつくるまちとまちをつなぐつなぎ方などがうまくできていると個人的に思う。そういう建物とまちをどう折り合いをつけながら、かつ、地域らしさを次世代に向けて構築していくかということが重要だと思う。

区民、企業がどういった工夫ができるかを実績としてどんどん積み上げ、本当に良いものがあれば、「大田区景観まちづくり賞」で表彰することによって、大田区の景観形成につながっていくのではないと思う。そういう意味で、今回の賞は、今までのルールとは違う、景観の育み方の一つのきっかけにしてもらえれば良いと個人的には思っている。

(福井氏)

- ・日本の景観行政は難しい。ヨーロッパの場合は、基本的に文化財を守ることだと思うが、日本の場合は、守るよりも新しくつくることが主体になるので、その点が特徴だと思う。特に、大田区は、羽田の国際線ターミナルなど良い建築がたくさんできていて、今日話題にならなかったことは偶然だと思うが、古い骨格を守るとともに新しいものをつくることは大変重要だと思う。

(来場者)

- ・大田区で自慢できることは景観だけではないと思うので、景観がどのように地域の文化財と絡んでいくかが大事ではないかと思う。そういう点も考えてほしい。

魅力ある街並みや景観、景観を守り育てる活動は何を目指しているのか。観光のためなのか、住民定着のためなのか、その辺りははっきりしないといけない。例えば、池上本門寺を観光地にしたければ、池上本門寺までどうアプローチさせていくかが重要だと思います。そういうところの街並みをどう守って、地域の人が育てていくかということに踏み込んでもらいたい。

景観で色を規制することは一つの方法だが、地域のシンボルになるものであれば、必ずしもその規制をかけなくても良いのではないかと思う。その辺は、皆さんはどう考えているか。鎮守の森のようなものがあって、地方には大きな神社に鎮守の森があり平野部から見て神社っぽいことが分かるが、大田区は、神社があるにもかかわらず、そういうところあまりできていないのではないかと思う。一つ一つ単体で取り上げるのも良いが、初めて来た人が目標にしやすい部分も残してもらいたい。

(杉田氏)

- ・シンボルになるものはルールから外れてもいいのではないかと思う。当然のことながら、景観計画は良い環境をつくるという目標があり、そのために一定のルールが設けられるが、それから外れてはいけないというルールのつくり方は画一的なものを生み出す。例えば、シンボルがその地域の歴史あるものであって、地域としては大切にしていけるべきだと考えていることが共有されているものであれば、ルールから外れても良いと思う。

都市構造を分かりやすくするような景観のつくり方も重要だと思う。シンボルになる、ランドマークになる、骨格を形成するようなものを景観と絡めながら守っていくことは大切だと思う。

(来場者)

- ・呑川はすぐ近くにあって、私が小学生の頃は泳いでいる人がいた。台風が来るたびに溢れ、

治水工事が行われ、ドブ川になってしまっているが、呑川を中心の魅力あるまちづくりは今まで聞いたことがないので、ぜひ進めてほしい。

今の川の構造をがらりと変えるには周りが狭すぎるので大変だと思うが、景観から何とかしていくということがあっても良いと思う。

私が小学生の頃、23区で面積が一番大きかったのは世田谷区だったが、今は大田区である。合併を別にして、面積が増えていく自治体はなかなか珍しい。そうした中で、今日はあまり話題にならなかったが、例えば、京浜島などに行くと、羽田空港の離着陸が間近に見られる、東京港野鳥公園があるなど、区民にとっても誇れるようなものがいろいろある。また、多摩川の河口がどんどん海のほうになって、里程標がマイナスになっているというなかなか珍しい現象もある。大田区にしか見られない魅力もあるので、そういうものを情報発信してほしい。

4) シンポジウム総括

(中井検裕氏 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻教授)

- ・中井氏から次のような総括がありました。

○総括の概要

- ・大田区の景観には答えがないということが大田区らしさの一つの特徴ではないか。それが多様性などにも現れてきているのだと思う。
- ・大田区の景観は多様だが、共通していることもある。例えば、商店街であれば日常的な買い物がありにぎわいがある、工場であれば旋盤の音などが聞こえてくる、住宅地であればきちんと庭などが手入れされているといった、単に空間をつくるのではなく、その背景にある人々の営みも含め、場所をつくっていくということが景観づくりなのではないか。



5) アンケート結果

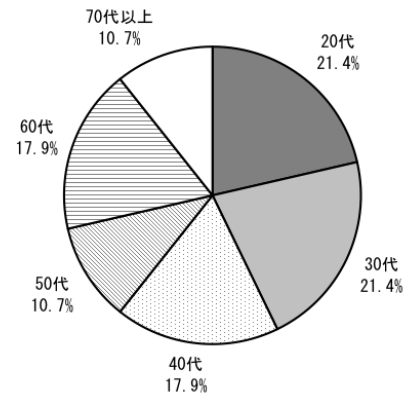
(1) 回収率

・来場者 59 名のうち、28 名 (47.5%) から回答がありました。

(2) 属性

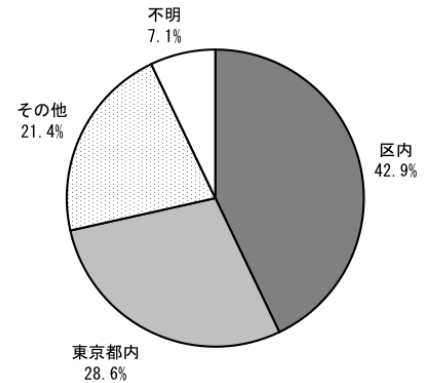
①年齢・性別

年代	男性	女性	不明	合計	割合
20代	4	2	0	6	21.4%
30代	5	0	1	6	21.4%
40代	3	2	0	5	17.9%
50代	1	2	0	3	10.7%
60代	4	0	1	5	17.9%
70代以上	2	1	0	3	10.7%
総計	19	7	2	28	100.0%



②住所

住所	合計	割合
区内	12	42.9%
東京都内	8	28.6%
その他	6	21.4%
不明	2	7.1%
総計	28	100.0%



【東京都内】の自由記入意見 (回答者 8 名のうち 7 名が回答)

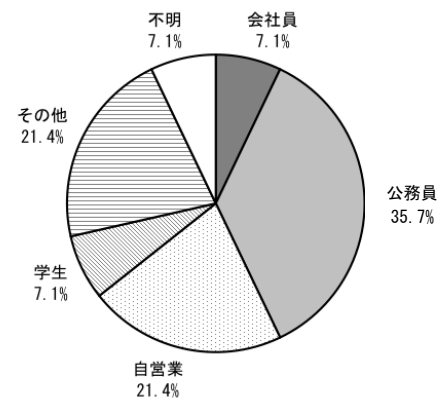
・目黒区 (2名) ・板橋区 ・北区 ・台東区 ・豊島区 ・中野区

【その他】の自由記入意見 (回答者 6 名全員が回答)

・川崎市 (3名) ・横浜市 ・市川市 ・さいたま市

③職業

職業	合計	割合
会社員	2	7.1%
公務員	10	35.7%
自営業	6	21.4%
学生	2	7.1%
その他	6	21.4%
不明	2	7.1%
総計	28	100.0%

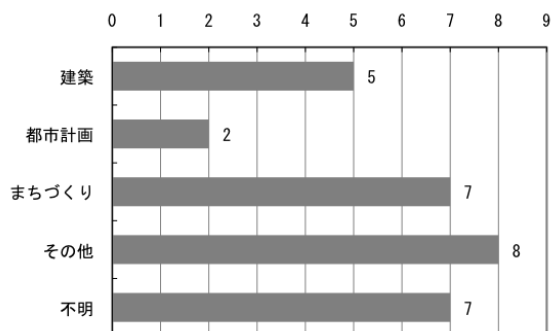


【その他】の自由記入意見 (回答者 6 名のうち 4 名が回答)

・フリー (2名) ・大学 ・町会役員

④職種

職種	合計	割合
建築	5	17.9%
都市計画	2	7.1%
まちづくり	7	25.0%
その他	8	28.6%
不明	7	25.0%
総計	28	100.0%

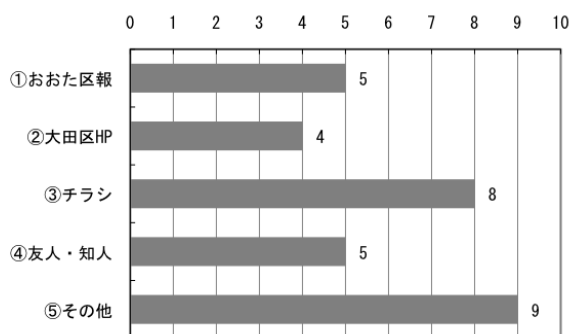


※1名複数回答があったため、割合の合計が100%にならない。

【その他】 の自由記入意見（回答者8名のうち5名が回答）
・デザイン含めた製造・販売 ・事務 ・土木 ・景観担当 ・工学部建築学科
【不明】 の自由記入意見（回答者7名のうち1名が回答）
・卸売商

(3) シンポジウム情報の入手先

入手先	合計	割合
①おおた区報	5	17.9%
②大田区HP	4	14.3%
③チラシ	8	28.6%
④友人・知人	5	17.9%
⑤その他	9	32.1%
総計	28	100.0%



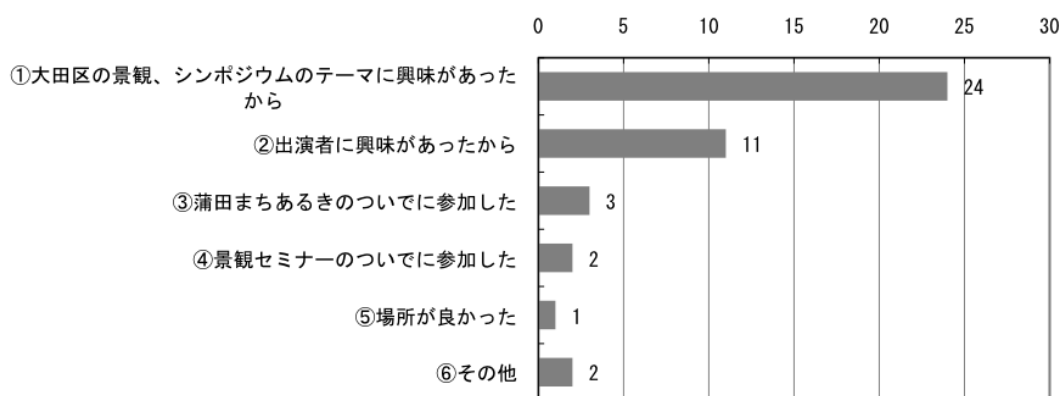
※2名複数回答があったため、割合の合計が100%にならない。

【③チラシ】 の入手先（回答者6名のうち3名が回答）
・研究室 ・大田区からの交換役 ・職場
【⑤その他】 のシンポジウム情報の入手先（回答者9名全員が回答）
<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画学会のメール（4名） ・景観審議会に出席した際 ・メーリングリスト ・景観審議会委員 ・ネット配信 ・区から団体（建築家協会）を通じての案内

(4) シンポジウムへの参加理由（複数回答）

参加理由	合計	割合
①大田区の景観、シンポジウムのテーマに興味があったから	24	85.7%
②出演者に興味があったから	11	39.3%
③蒲田まちあるきのついでに参加した	3	10.7%
④景観セミナーのついでに参加した	2	7.1%
⑤場所が良かった	1	3.6%
⑥その他	2	7.1%

【⑥その他】の自由記入意見（回答者2名全員が回答）
・大田区担当として興味があるため ・何となく



(5) 大田区の景観の好きなところ、嫌いなところ

①大田区の景観の好きなところ（アンケート回答者 28 名のうち、22 名が回答）

自由記入意見
<ul style="list-style-type: none">・町工場（3名）・羽田空港・町工場、羽田空港・羽田周辺、飛行機が見える景観・田園調布・田園調布のきれいな景観・田園調布駅前（放射状の街並み）、池上本門寺前、糀谷地区、八幡橋（呑川）・多摩川沿い・多摩川の土手、大森ふるさとの浜辺公園・洗足池・小池周辺・緑が多く、近代的な建築物の中にも落ち着ける場所があるところ・海沿い、川沿いの開放的な空間、私鉄の走る風景、工場・海があるところ、緑のあるところ・水、緑を生かしたまちづくり・水辺が多い・川、並木など自然があるところ・海と公園・多摩川沿いのサイクリングロード・交通の便が良い

②大田区の景観の嫌いなところ（アンケート回答者 28 名のうち、14 名が回答）

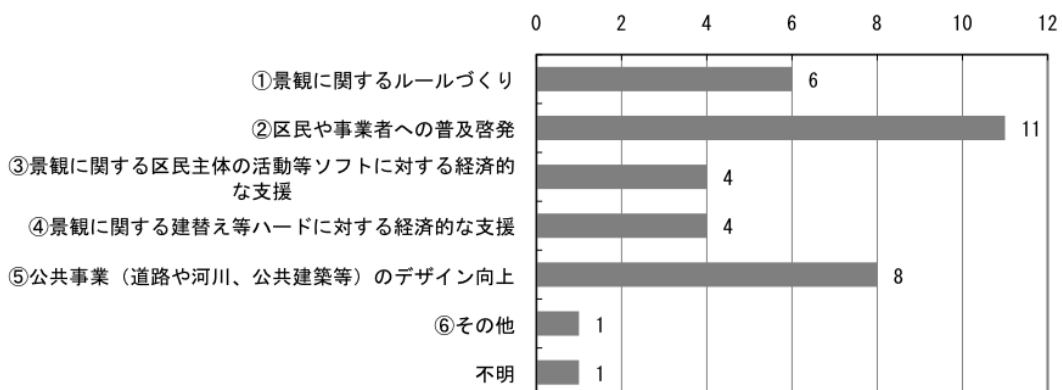
自由記入意見
<ul style="list-style-type: none">・雑然としている・ごちゃごちゃしているところ・蒲田の雑多なところ・蒲田駅前パチンコ店、カラオケ、呑川の水の汚れ・ごみ・駅前が汚い・不法投棄ゴミ、駅前の広告看板・広告が多い・建物の色がバラバラ・商業地域・京急線沿線など、大きな道路沿いの景観・センスの光る新しい建物が少ない・新築ビルに街並みを考えた設計がない・高架下の自転車置き場・呑川

(6) 大田区の景観維持向上・改善策として重要だと思うもの

選択肢	合計	割合
①景観に関するルールづくり	6	21.4%
②区民や事業者への普及啓発	11	39.3%
③景観に関する区民主体の活動等ソフトに対する経済的な支援	4	14.3%
④景観に関する建替え等ハードに対する経済的な支援	4	14.3%
⑤公共事業（道路や河川、公共建築等）のデザイン向上	8	28.6%
⑥その他	1	3.6%
不明	1	3.6%
総計	28	100.0%

※4名複数回答があったため、割合の合計が100%にならない。

【⑥その他】の自由記入意見（回答者1名が回答）
・人の行動は移ろいやすいので、あまり強く規制してもしょうがない。守りたいものは自然に守られると思う。



(7) 大田区の景観のあり方やシンポジウムに関する自由記入意見

(アンケート回答者28名のうち、9名が回答)

自由記入意見
<ul style="list-style-type: none"> ・景観愛を出すのがプロですので、写真を撮るのが専門でなければ、上手にキャッチできないのではないかと。要望です。一般の方が選出した場合に、写真を撮る人に事務局が協力できないか。 ・シンポジウムに出席して、普段感じないものが今後、町を歩いて、新たな発見に繋がる可能性がある ・前半のセミナー。先生方の顔ぶれや講演内容、大変参考になった。 ・他の自治体や海外の街を参考にするのは良いが、「真似事」にならないことを切に願う。 ・人口減少、必要建築床面積の縮小の機会を得て、土木、公共施設を中心に、良質な景観の形成がぜひ必要。 ・「魅力ある街並みや景観や景観を守り育てる活動」は何を目指しているのか、分かりやすく説明してほしい。(観光なのか、定着なのか) 景観維持って経済力だと思います。 ・土、日開催、平日夜間の方が参加者は増えると思います。 ・一人一人がまちづくりに対して意欲を持つ。しかし全ての意見を聞くことは難しい。

まちづくりイベント、セミナーなどを通じ、少しでも区民の意見を取り入れ、町工場の復興作業も通じ、多種面で大田区は進んでいけるのではないかと思います。

- ・ 緑、色、建物など専門的な視野からの講演が良かった。

2. 景観セミナー

1) 開催概要

- ・ 大田区景観アドバイザー 3 名を講師に迎え、景観に関する講座を実施するとともに、大田区の景観に対する参加者の認識を把握するため、大田区の景観はこうなったらいいな「あいうえお作文」作成ワークショップを行いました。

○開催概要

日 時：平成 27 年 7 月 13 日（月） 15 時から 17 時まで

参加者：17 名（区内 10 名、区外 7 名）

○当日のプログラム

時間	プログラム
15：00～15：15	景観セミナーの趣旨
15：15～16：25	景観セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観とは？ ・ 景観における緑の役割 ・ 景観における色彩の役割
16：30～16：55	「大田区の景観はこうなったらいいな」あいうえお作文ワークショップ
16：55	閉会

○景観セミナー及びワークショップの様子



2) 大田区景観アドバイザーによる講座の実施

- ・ 3名の景観アドバイザーが各自の専門性を活かした講座を行いました。

○セミナーテーマと講師

セミナーテーマ	講師
景観とは？	佐谷和江氏 ・ 大田区景観アドバイザー（専門：都市計画） ・ (株) 計画技術研究所代表取締役
景観における緑の役割	加藤修氏 ・ 大田区景観アドバイザー（専門：緑） ・ 武蔵野美術大学講師、(株) ヘッズ取締役東京支店長
景観における色彩の役割	滝沢真美氏 ・ 大田区景観アドバイザー（専門：色彩） ・ (株) 日本カラーデザイン研究所プロジェクト推進部副部長

○景観セミナーの概要

〈景観とは？〉

- ・ 景観には良い景観、悪い景観、普通の景観がある。良い景観はただ守るだけではなくより発展させていく、悪い景観はどう改善していくか、普通の景観はどのような共通認識を持って良いものをつくっていくかという方向性が大切。
- ・ 普通の景観づくりの一つの方向性として、看板がほとんどない街並みを作り出している川崎市の新百合ヶ丘駅周辺を紹介。
- ・ 景観を考えるときにまちの使い方を提案することも大事ということで、道路上にカフェを設置することによってにぎわいを創出している横浜市の日本大通りを紹介。

〈景観における緑の役割〉

- ・ 建築物に大木が植栽されているイタリア・ミラノの建築物からカフェ、窓辺、中庭、広場の街角、道、駅、公園など様々な場所での緑の事例を紹介。
- ・ 商業施設では、滞留時間を長くする、人を呼ぶための仕掛けとして緑が大切に使われている。

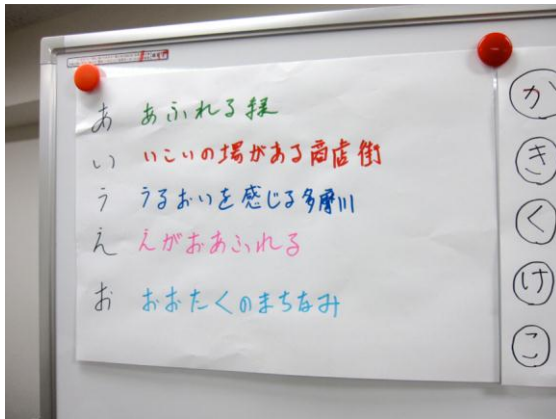
〈景観における色彩の役割〉

- ・ 現在色彩の規制方法として、建築物本体の色彩を規制することになっているが、街並みは、色彩だけでなく、路面やストリートファニチャー、サイン等様々な要素が影響することから、それらを含めた全体でまちの色を考えたほうが良い。

3) 大田区の景観はこうなったらいいな「あいうえお作文」作成ワークショップ

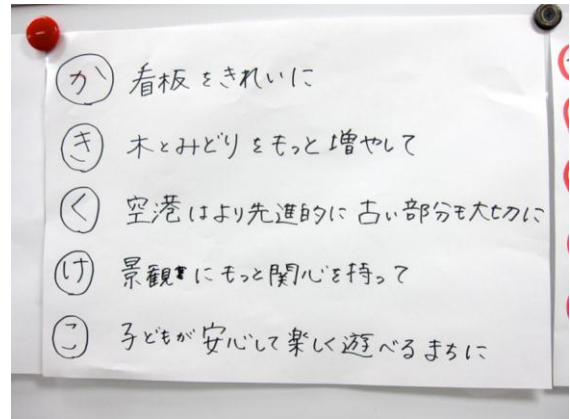
- ・参加者 17 名を 4 グループに分け、グループごとに「大田区の景観はこうなったらいいな」をテーマに「あいうえお作文」を作成しました。

○ 4 グループが作成した大田区の景観はこうなったらいいな「あいうえお作文」



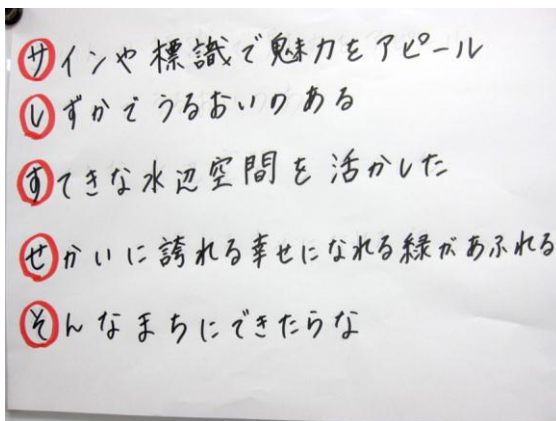
【あ行のグループの作文】

- あ あふれる緑
- い いこいの場がある商店街
- う うるおいを感じる多摩川
- え えがおあふれる
- お おおたくの街並み



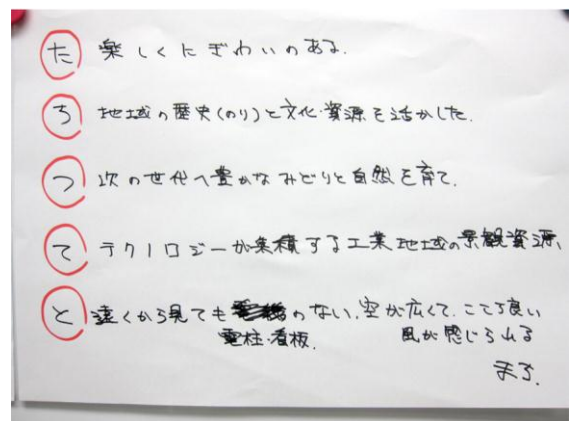
【か行のグループの作文】

- か 看板をきれいに
- き 木とみどりをもっと増やして
- く 空港はより先進的に古い部分も大切に
- け 景観にもっと関心を持って
- こ 子どもが安心して楽しく遊べるまちに



【さ行のグループの作文】

- さ サインや標識で魅力をアピール
- し しずかでうるおいのある
- す すてきな水辺空間を活かした
- せ せかいに誇れる幸せになれる緑があふれる
- そ そんなまちにできたらいいな



【た行のグループの作文】

- た 楽しくにぎわいのあり
- ち 地球の歴史（のり）と文化・資源を活かした
- つ 次の世代へ豊かなみどりと自然を育て
- て テクノロジーが集積する工業地域の景観資源
- と 遠くから見ても電柱・看板のない・空が広くてこころ良い風が感じられるまち

3. 蒲田まちあるき

1) 開催概要

- ・大田区職員（まちづくり管理課都市計画担当）の案内のもと、大田区役所から産業プラザ Pio までの蒲田周辺を散策しました。

○開催概要

日 時：平成 27 年 7 月 13 日（月） 15 時から 17 時まで

参加者：16 名（区内 9 名、区外 7 名）

○当日のプログラム

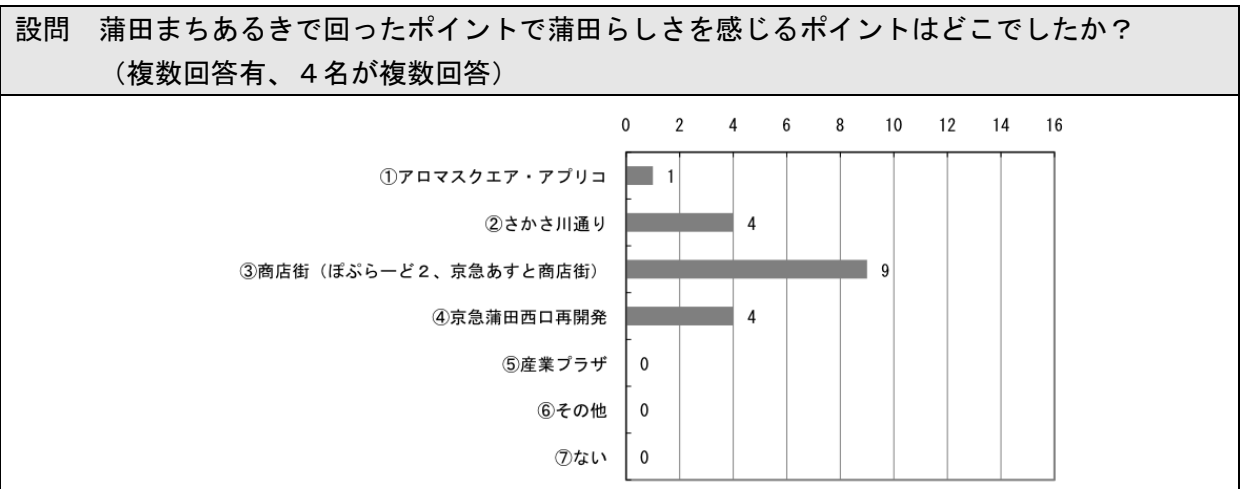
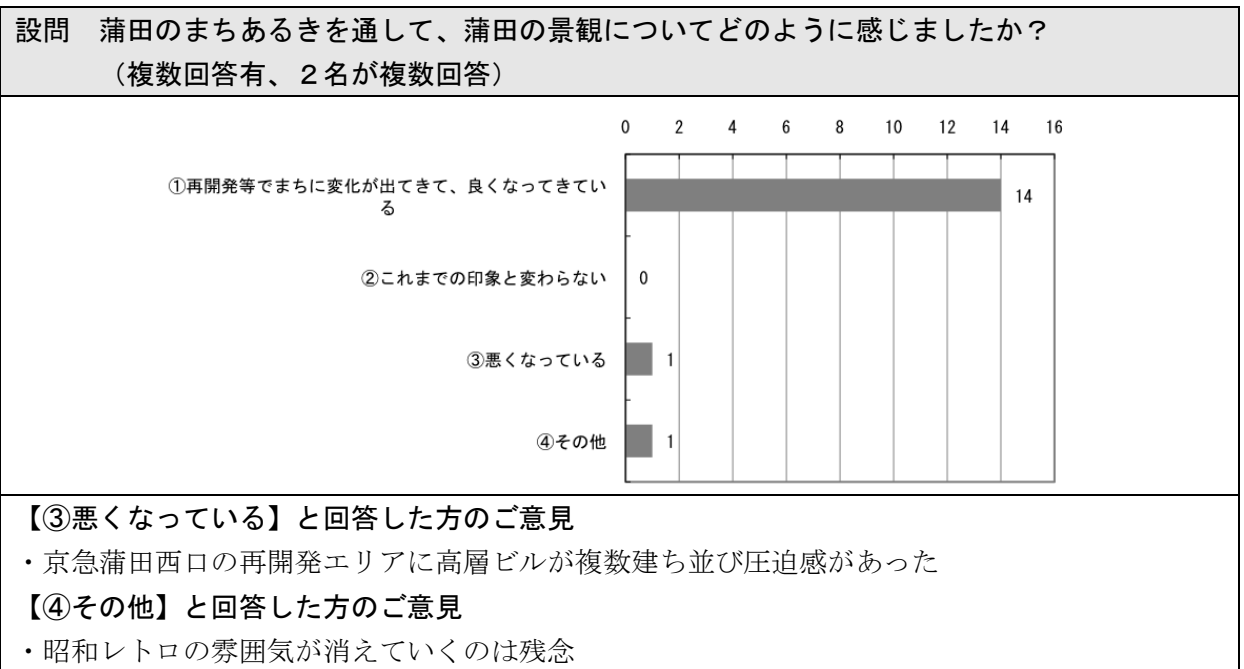
時間	プログラム
15：00～15：10	景観パネル展紹介（大田区役所 3 階）
15：10～15：40	アプリコ、さかさ川通り、ぽぷらード、京急あすと、京急蒲田西口再開発の順に散策
15：50～16：20	講義「大田区のまちづくり」（産業プラザ Pio 6 階 E 会議室）
16：30～16：55	連続立体交差事業の現場見学 （京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業）
17：00	質疑応答、現地解散（京急蒲田駅）

○蒲田まちあるきの様子

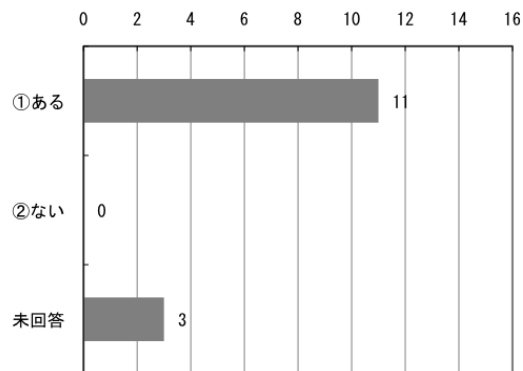


2) アンケート結果

- ・蒲田まちあるきに参加した 16 名のうち、14 名（87.5%）から回答がありました。
- ・結果概要を以下に示す。



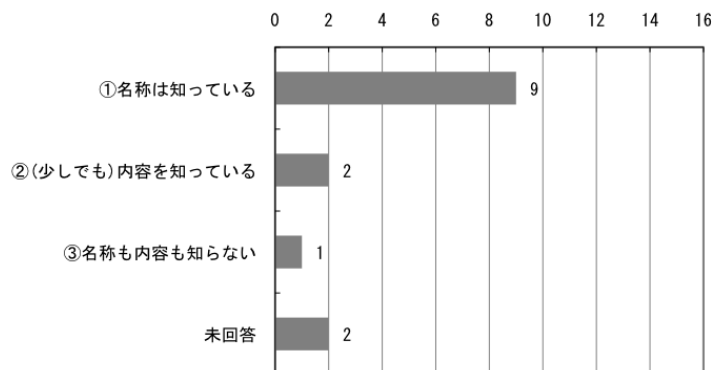
設問 大切にしたい大田区の景観はありますか？



【①ある】と回答した方の大切にしたい大田区の景観

- ・池上本門寺周辺（歴史と自然/歴史的に重要で美しいのにあまり有名でない、羽田にも近く観光地として良い位置）（4名）
- ・多摩川周辺（土手などの自然）（3名）
- ・田園調布の住宅地の街並み（2名）
- ・洗足池周辺
- ・緑が多いところ
- ・台地部の自然環境、羽田空港、海岸沿いの運河、臨海部
- ・ぽぷら一ど周辺、あすと商店街、京急蒲田駅周辺
- ・浅間神社(田園調布)、亀小山古墳

設問 平成 25 年 10 月策定の「大田区景観計画」を知っていますか？



設問 大田区の景観についての自由記入意見

- ・羽田空港、下町工場、多摩川、池上本門寺、田園調布と、日本、東京の縮図の様である。観光に力を入れて良い立地と景観を持っている。
- ・シネマの町だった面影がほぼない。川の方にはシネマが3か所あり、賑わっているのに残念。
- ・道路が広くなり、楽しみです。
- ・緑、花、商店街の活性なくして大田区的发展なし。
- ・蒲蒲線を通すとしても、その用地取得は難しいだろう。現在の街並みを崩すことなく、上空を使えば良いのだが。
- ・安全性や利便性の追求はやむを得ないのかもしれないが、歴史を経てきた個性が失われてしまうのは残念。逆川事業のように、過去をたどれる仕掛けも必要。これが表面的なことだけでないこと、「防災」等にもつながるはず。

4. 景観パネル展

- ・平成27年7月1日（水）～23日（木）まで大田区本庁舎3階にて景観パネル展示を行いました。その他、第1回大田区景観まちづくり賞募集チラシなどを配布しました。

○展示内容

①大田区景観計画に関する内容

- ・大田区景観計画について（おおた区報平成25年11月11日号）
- ・景観特性の図
- ・市街地類型及び景観資源の種類と位置図
- ・景観誘導の考え方
- ・各景観資源位置図、主な景観資源の写真
- ・色彩について
- ・基本方針方針図
- ・景観形成重点地区の概要と位置図
- ・届出対象行為、届出の手順
- ・景観形成重点地区方針図、主な写真
- ・景観重要公共施設の位置図と写真

②これまでの届出等の実績

③景観マップ及びまちの緑図（18特別出張所と空港臨海部）

④建築物マップ（区全域にある景観資源のうち、建築物等の位置と写真を示したマップ）

⑤大田区景観まちづくり賞キックオフイベントチラシ

⑥第1回大田区景観まちづくり賞募集チラシ（7月13日（月）から）

⑦蒲田周辺の昔の地図、今昔写真

⑧その他

- ・おおたオープンファクトリー
- ・大岡山地区まちづくりニュース
- ・他地区の景観表彰制度事例

○展示風景



